

令和 7（2025）年度

学習院大学大学院 博士前期課程（春期）

人文科学研究科・美術史学専攻

入学試験問題

9：00～10：00 美術史

10：20～11：50 外国語原書読解

13：10～14：10 論文

※外国語原書読解のドイツ語・フランス語・イタリア語は、
選択者がいないため、問題はありません。

2025 年度 学習院大学大学院 人文科学研究科 春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

志望研究科	人文科学研究科 博士前期課程	志望専攻	美術史学専攻	受験番号		カナ	
						氏 名	
試験科目	外国語原書読解 (英語) 【試験時間】10:20～11:20		備考	問題用紙 (1) 枚中 (1) 枚目		採点欄	

1. 以下の全文を現代日本語に訳しなさい。

※この問題は、著作権の関係により掲載できません。

2. 以下の全文を現代日本語に訳しなさい。

Persimmon Tree
Sakai Hōitsu

※この問題は、著作権の関係により掲載できません。

2025 年度 学習院大学大学院 人文科学研究科 春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

志望研究科	人文科学研究科 博士前期課程	志望専攻	美術史学専攻	受験番号		カナ	
						氏 名	
試験科目	外国語原書読解 (英語) 【試験時間】10:20～11:20		備考	解答用紙 (1) 枚中 (1) 枚目		採点欄	

※太線わく内は必ず記入してください。

志望研究科		志望専攻		美術史学専攻		受験番号		氏名		カナ
外国語原書読解（漢文）		備考		問題用紙		採点欄				
【試験時間】十一時二十分～十一時五十分		(一) 枚中 (一) 枚目								

以下は、浦上春琴『論画詩』からの抜粋である。
(一) 全文を通行体の漢字で書き下しなさい。
(二) 全文を現代語に訳しなさい。

學畫難於詩又不易於書詩全傳古人世世見規模
書亦存摹勒尚可求前途畫存古蹟鮮何處尋一隅
埋筆接董巨意會悟黃吳
董源字叔達或曰字北苑鍾陵人釋巨然江寧人
黃公望字子久号一峯又号大痴道人平江常熟
人吳鎮字仲圭号梅
花道人嘉興魏塘人
海屋生曰求於古畫之難難於學詩書確論確論
學畫與禪同結跏或多年敗筆雖成塚動卽墮狐禪
不知在魔界畢竟是何緣一因天分低一因名利纏
讀書問古人忘我求自然

二〇二五年度 学習院大学大学院 人文科学研究科 春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

試験科目		志望研究科	
外国語原書読解（漢文） 【試験時間】十一時二〇分～十一時五〇分		人文科学研究科 博士前期課程	
		志望専攻	
		美術史学専攻	
備考		受験番号	
(一) 枚中 (一) 枚目			
採点欄	氏 名	カナ	

※太線わく内は必ず記入してください。

志望研究科	人文科学研究科 博士前期課程	
志望専攻	美術史学専攻	
受験番号		
氏名	カナ	
採点欄		
試験科目	外国語原書読解(日本語) 【試験時間】十一時二十分～十一時五十分	
備考	(一) 枚中 (一) 枚目	
問題用紙		

以下の文章を読んで、

- 一、文意を200字程度で纏めなさい。
二、著者の意見に対して、東洋美術の事例を挙げながら、あなたの考えを簡潔に書きなさい。

わたしたちが一般に、芸術家としてまず思い浮かべるのは、ピカソやゴッホ、ゴーギャンやセザンヌといった近代の、つまり十九世紀後半以降の画家たちであることが多い。このような画家たちに共通するのは、伝統となった既成の先行作品の模倣を否定して、ある種の暴力とともに前衛としての自己のオリジナリティを追求する姿である。

芸術家をこのように独創性のある天才ととらえる見方は、産業革命や市民革命を経たのちの近代社会の成立と平行して広まっていたと一般には考えられている。芸術家たちは、模倣や複製ではなくオリジナリティの追求に自らの存在のよりどころを求めはじめる。その結果、複製作品の市場価値はどんどん下がっていった。そして、悪意があるうとなかろうと、すべてのコピーは「贋物」として倫理的に非難されるようになってしまったのである。

しかし、最近になって「美学」が歴史的に相対化されるようになって、あるいは複製技術の進化によって「オリジナルなきコピーの時代」が到来したこともあって、やっと気が付かれるようになったことだが、どうやらこのような「天才美学の専制」は近代に特有の現象であって、少なくとも前近代の世界においては、必ずしも複製はその価値をいつも低く見られたり、非法化されていたわけではなかったようなのだ。

古代世界では、ローマだけではなくギリシャにおいても複製が盛んに制作されていた。しかも、複製制作者は必ずしもオリジナリティのない劣った彫刻家とみなされていたわけではない。複製像は当時の社会的なコンテキスト内で、それ自体の機能と意味を有していたという。美術史研究におけるオリジナル重視とコピー軽視の原因のひとつになったと言えなくもない古代彫刻の世界だが、その歴史上の実態から言えば、自動化した思考に慣れた常識的な想像をはるかに超える豊かな関係が、このときすでにオリジナルとコピーのあいだに成立していたというわけだ。

中世の美術においても同様の事態を確認することができる。模写によって聖性が受け継がれるイコンの例は、その典型的なものだ。あるいは、中世末期の北方では版画制作の技法と工房組織の確立に伴い、複製の合法性が問われる事態が発生してくる。考えてみれば、美術は、もともと自然をコピーすることから始まった。いかに巧みに、さらにはいかに「独創的」にコピーするかを競ってきたのが美術である。したがって、いま確認したように、西洋美術の歴史のなかで複製にオリジナルな価値と効用が認められてきたことは、それほど不思議なことではない。複製はいつでもそれ自体の権利においてオリジナルに変貌することが可能なのである。

その意味では、「複製の復権」は、あまりにも当然なことかもしれない。しかし近代美学の普遍主義が、このあまりにも当然の事実への理解を妨げてきた。したがって、このごく限られた地域と時代に成立したオリジナリティの美学を不当に一般化しているかぎりは見えてこない複製の意義を取り戻すことが必要なのである。

加藤哲弘「複製の復権 オリジナリティ神話を越えて」『西洋美術史研究』一一号、二〇〇四年）より

二〇二五年度 学習院大学大学院 人文科学研究科 春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

試験科目		志望研究科	
外国語原書読解(日本語) 【試験時間】十一時二〇分～十一時五〇分		人文科学研究科 博士前期課程	
		志望専攻	
		美術史学専攻	
		受験番号	
備考	(一)枚中(一)枚目	解答用紙	
採点欄		氏名	カナ